

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2014.06
Vol.06

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

四肢外傷センター

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびようTopics

平成25年度IVナース3期生が認定されました
平成25年度リハビリテーション科・吸引研修チームが誕生!

■新人、若手教育

・診療部より専攻医の声、研修医の声
・薬剤部よりレジデント教育

■院長エッセイ「四季雑感」

睡眠時無呼吸症候群

■医療技術NOW!

3次元画像解析システム

■絵の中の風景を旅するvol.6

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



四肢外傷センター

四肢外傷センター長／整形外科部長：正田悦朗



外 傷センターという名称はあまり聞き慣れないのではないのでしょうか？重傷の救急患者を扱う救命救急センターはよく知られています。これに対して外傷センターは、交通事故や労災事故、転落事故、災害時の外傷に特化して救命救急医療を担うものです。海外では、ドクターカーやドクターヘリによる搬送の機能も備えた外傷センターが、半径50km以内に1カ所とか人口30万人あたりに1カ所というような状態で設置が義務づけられています。日本でも最近、数カ所の病院で設置されていますが、海外のように国や県が認定しているものではなく、病院ごとに設置されています。独立した施設もありますが、海外のようにドクターヘリ機能まで備えてどんな外傷疾患にも対応できる施設はほとんどなく、多くは救命救急センター内や整形外科の中で行われています。

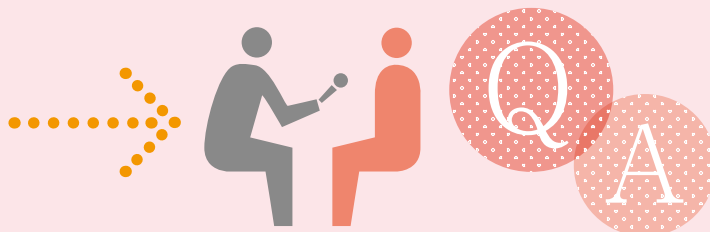
て救命救急センターの協力のもとに早期から治療を行う事ができるようになりました。多発外傷の場合、命は助かったが、骨折などの後遺症のために、手がうまく使えない、歩けないというような事がありますが、できるだけ早期に骨折や筋肉や腱の損傷に対して整形外科的治療を開始することで良好な機能予後が得られます。

こ のように私たちの四肢外傷センターは、救命救急センターと整形外科のつなぎ役を担う部署であり、現在完全に独立したものではありません。将来海外のように独立したセンターとして、歩いて来院される骨折のケースから救急車で搬送されすぐに救命処置や手術が必要なケースまで対応できればと考えています。まだまだ多くの課題がありますが、一歩ずつ前進してまいります。

当 院の四肢外傷センターは昨年度に設置されました。その目的は救命救急センターに搬送された外傷患者に素早く対応することです。以前は、救命救急センターで状態が落ち着いてから整形外科が対応していました。最近では、骨折を伴う多発外傷（頭部外傷、胸部外傷、腹部外傷を合併）や多発骨折、開放骨折に対し



整形外科について質問! INTERVIEW



Q 膝の水を抜いてもクセにはなりませんか？

A 膝に炎症があると、防御反応として水がつくられます。水を抜いても炎症が収まらない限り水は溜まります。軽度であれば経過を見るのも良いと思いますが、痛みが強かったり、水が多く溜まっている場合は、痛み、関節拘縮、筋肉の萎縮につながりますので、早期に整形外科を受診されることをお勧めします。

Q 膝関節の手術をしますが深部静脈血栓症のリスクについて教えてください。

A 股関節や膝の手術は大血管の近くを操作することや、手術後、同じ体位を取るなどが主な理由としてあげられます。当院では安全に手術を受けていただけるよう、術前術後の深部静脈血栓症の防止に最大限の努力をしています。



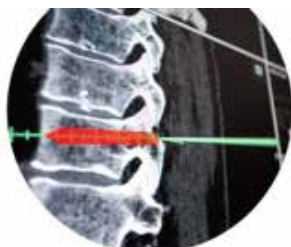
(2-4病棟看護師長: 大安三重)

最新情報

□先端医療 ナビゲーションを用いた手術

ナビゲーションを用いた手術は、人工関節や脊椎手術で用いられるようになってきています。目で見ただけではなく、手術前に撮影したCT画像をもとにしたり、手術中の器械の位置をマークしたりして、人工関節の位置が良いかどうかを確認していきますのでより正確に手術ができます。骨折の手術では、スクリューを入れる方向をX線ではなく、このナビゲーションを使用して確認する事ができます。このようにすることでX線被爆をおさえる事ができます。整形外科領域でもこのシステムをまもなく導入予定です。

(四肢外傷センター長、整形外科部長: 正田悦朗)



スタッフ紹介



- 正田悦朗(四肢外傷センター長、整形外科部長)
- 鴻野公伸(四肢外傷センター長、救命救急センター長)
- 北田真平(四肢外傷センター医長、整形外科医長)
- 佐々木優(整形外科専攻医)
- 平瀬仁志(整形外科専攻医)
- 大安三重(2-4病棟看護師長)
- 2-4病棟看護師、救命救急センター看護師
外来看護師

四季雑感



梅 雨に煙る新緑には、心が洗われるような格別の趣があります。雲間から明るい陽光が降り注いできた時、私たちは虹を戴いた山並みに心を弾ませることでしょ。

一方では、夏になると、寝苦しい夜が煩わしくなってきました。近年、よく話題にのぼる病気の一つとして、睡眠時無呼吸症候群があります。本人は自覚していませんが、夜中に何度も目覚めて、睡眠不足になります。そのために昼間に居眠りが出て、勉強や仕事に支障をきたし、交通事故にもつながるので注目されています。

肥満が原因になっていることが多く、心疾患や脳卒中を起こしやすくなりますので、気をつける必要があります。肥満になると、上気道の内腔が脂肪のために狭くなって、発症しやすくなるようです。症状は、ひどい「いびき」や目覚めたときの頭痛などです。

最近、小児にこの病気が増えていることが話題になっています。このことは、小児の肥満が増えているせいだと言われています。同時に、日本人の身長が急速に伸びたこと、そして柔らかい食事をあまり噛まずに摂るようになったために、顎が小さくなったことがかかわっています。

この病気はヒトにだけ起こることが知られています。ヒトが直立して歩行するようになったので、チンパンジーなどよりも、喉の位置が低くなったために生まれた病気のようなのです。

その代わりに、というわけではありませんが、良いことも起こりました。このように喉の構造が変わったおかげで、ヒトは言葉を話すことができるようになったのです。寝苦しい夏の夜には、気持ちを切り替えて、眠くなるまで家族と語らうというのは、いかがでしょうか。



院長
河田 純男

医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

「3次元画像解析システム」

西宮病院では、3次元画像解析システム(3DWS)を導入して画像診断に役立てています。マルチスライスX線CTで得られた画像(5mm厚)を薄い画像(1mm厚)に再構成し、3DWSを使用して写真のような画像(多発肋骨骨折、血管損傷疑い、大腿骨骨折、下腿骨骨折、脳動脈瘤、肩関節骨折)を作成し、医師に提供しています。このような画像を作成する3DWSは医療、特に救急医療には必須の支援ツールです。迅速な診断・治療を行えるよう放射線部(診療放射線技師)では、画像を提供できるように努めています。

(検査・放射線部:竹鼻宏明)



平成25年度IVナース 3期生が認定されました (2014.3.18)

<IVナースとは?>

- ・抗がん剤を穿刺、管理、指導できる看護師のことで、約3ヶ月の研修を受けて認定されます。
- ・造影剤認定もあり、予約造影CT検査の造影剤注射を行っています。
- ・いずれも西宮病院認定で、「すべての責任は診療部にある」という理念のもと育成されています。
- ・西宮病院では、合わせて48名のIVナースが育っています。

(外来看護師長:高田ゆかり)



平成25年度リハビリテーション科・ 吸引研修チームが誕生! 院長認定を受けました (2014.3.25)



理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は、法律上、「吸引」は実施可能な行為とされています。リハビリテーション科では吸引ができる療法士の育成に取り組み、吸引可能な療法士が4名誕生しました。4名は、病院長の認定を受け、西宮病院が承認した吸引可能な療法士となりました。写真は、彼らを識別するためのシールです。「吸引」につけて、九宮鳥のキューちゃんに決めました。自分たちのお手製キューちゃんシールを付けた4名は、緊張しながらも着実に役割拡大を実践しています。訓練中の急変時対応の質が大きく上がります。“医療スタッフの協働・連携によるチーム医療”の推進に繋がる変化となりました。

(理学療法士:立田勝二)

新人若手教育

専攻医の声

地元である当院で2年間初期研修を行ったのち、消化器内科専攻医として今年4月で3年目を迎えました。当院の消化器内科は先進的な診療を行っており、扱う分野も肝胆膵、消化管、化学療法と多岐に渡ります。平成26年1月から消化器病センターが開設され、外科・内科の枠を越えて消化器疾患の診療が行われています。この状況の中で、私自身もより専門性を高めて診療に臨みたいと考えております。消化器疾患は、急性から慢性まで幅広い層の患者さんが対象となり、近隣の医療機関の先生方のお世話になる機会が多いと思われませんがよろしくお申し上げます。

(専攻医:安田華世)

研修医の声

研修医になり1年が経ちました。初めは病棟業務もままならず、先輩医師や看護師さんに教えてもらいながら、社会人として通用するようご指導いただきました。数ヶ月が経ち徐々に業務に慣れたころには、次は患者さんの病態を把握することに悩まされました。教科書通りにいかないことはざらにあり、実際の臨床現場はとても大変で、そしてとても刺激的でした。毎日疑問点が浮かべば、教科書・文献を調べ直して、指導医に教えていただき、1日1つは新しく得られるものがあり、とても充実しています。これからも、患者さんから学ばせて頂いているという気持ちを忘れずに、日々研修に励みたいと思います。

(研修医:南和伸)

薬剤部レジデント教育

兵庫県では、臨床実務研修や講義等により実践調剤技術を身につけるとともに、将来的に高度医療に対応した臨床薬学管理やチーム医療が実践でき、安全で安心な良質の医療に貢献するための基礎的技能を備えた薬剤師を育成することを目的として、平成24年度に薬剤師レジデント制度を開始しました。カリキュラムは2年で、現在当院には1年目(医療薬学一般課程)のレジデント1名が職員とともに日々業務に励んでいます。

(薬剤部:高村志保)



絵の中の風景を旅する vol.6

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にもぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館9階
E V 前の壁面



土壁の土蔵に水路にたたずむ一艘の舟。

昔から、利根川下流や琵琶湖、柳川といった全国の河川の合流部や湖沼の近くなどの低湿な水辺地域を「水郷」と呼んでおり、一般的に移動手段として舟運が発達していた。この作品はいくつかの土蔵が川沿いに並んでおり、昔は水路が張りめぐらされ、近くの商家からたくさんの荷物を運んでいたのだろう。時代は流れ、陸路が発達した今では、昔なつかしい、のんびりとした時間が過ぎていくことを感じる事ができる作品だと思います。

(総務次長:足立彰久)

編集後記

編集室



6月には、世界最大のスポーツイベント、ワールドカップブラジル大会が開催されます。日本代表の活躍が期待されますが、チームとして力を発揮するには、各メンバーが目標を共有し、そのためにどう行動するかが求められます。4月の異動により、新戦力を加えた「チーム西宮」の活躍もご期待ください。

(総務部長:吉野豪人)

H A M A K A Z E

2014
Vol.06

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436

E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2014.5 発行